

# 大野川流域

## 史跡巡りに参加して

河野 信夫

(会員 佐伯市野岡町)

春爛漫天気にも恵まれた四月八日、大野川沿い史跡巡り研修に参加しました。今回はこれまでと異なり、途上の安全を考慮してバス貸し切りにしたものの、人数が整わず、弥生町歴史文会の皆さんとの合同研修となりました。総勢二十四人で席は埋まりました。

出発後バスの中で、古藤田先生から農民一揆のお話を聞きました。

特に岡藩の百姓一揆はスケールの大きさと他とは比較にならないものであったこと、さらに処罰では農民側の処刑にとどまらず、武士階級にも多数の切腹者、投獄者を



模擬復元された岡城大手門やぐら前で

出した特別なものでした。原因は藩の財政が困窮していたことに加え新法の制定が農民を苦しめ追いつめたのです。藩のために新法を作った武士たちも裁きをうけたのです。この一揆が各地に広がり、佐伯藩では十ヶ条を掲げての一揆でしたが、岡藩以外は雷同一揆(付和雷同)と呼ばれています。

大変な時代を皆よく切り抜けてきたものです。

車は竹田を過ぎ祖母山を見上げながら大野川を上流へと進む。溪谷は段々と険しく、さすが源流が近づいたかと思われるほどでした。

最初の目的地、穴森神社に到着です。四百五十年もの巨木が生い茂る中にお社がありました。お参りのあと、拝殿の奥を降りると伝説に名高い大きな洞窟がありました。祖母の神は蛇体と云われ、豪族の娘が夜な夜な通ってきた男、実は蛇体の祖母山の神と通じ大神一族の始祖を生んだというもので、大蛇のいた場所がこの洞窟です。回りの静けさと重なり荘厳な気がして洞窟を覗き込みましたが、傍らに二百円入れれば奥に電気がつくよと書いてあったのはなにか雰囲気そぐわない感じでした。またこのお社をよく見ると佐伯氏の家紋がいくつも

刻まれており、中世佐伯氏と一体感を示していると思われれます。

次は少し下った所に祖母山の神、健男霜凝日子神社(タケオシモコリヒコ)外宮、お社は道路から見えない程の山腹にあり、この急階段を誰かが数えて二百三十五段皆な一気に登ってお参りしました。

豊後六神の一つに数えられて、大野川水源の水神信仰とも関り、最近では五穀豊穰に神として信仰を集めているようです。

次に下車したの

が荻町の白水ダム、駐車場から下ること六百米、眼下に広がる湖と越流式ダム、このダムから流れ落ちる水は水泡を含み真白に変色して独特の景観を呈しています。堤長86米、



重要文化財に指定された白水ダム

堤高14米、貯水量60万屯、昨年重要文化財に指定されています。

カメラマン数組がこの水flow美を撮影していました、私達も負けじとシャッターを押しました。

車はお昼も少し過ぎて竹田岡城に入りました。丁度お花見と重なり観光客も一杯で、駐車も困難な程でした。入場券は岡城史の絵巻物になっており、さすが岡藩七万石の竹田市のやることはおもしろいと思いました。

城跡の桜も満開、今まで何度か訪れましたが花見と重なったのは初めてで、佐伯の三の丸もきれいですが、岡城のは規模が違う、来て本当に幸せを感じました。桜の下でのお弁当のおいしいこと、おみきも入っていい気持ち。大手門やぐらが市政四十五周年事業で模範復元されており、このやぐら門をバックに記念写真。四月十三日には解体とのことでした。

家老屋敷跡、三の丸跡、本丸跡とそぞろ歩きながら往時が偲ばれ、難攻不落の城として城壁にも風格を感じました。

城を下りて次は歴史資料館に駐車。但馬屋でのおみやげ買いで気も楽になりました。これから帰途につきます

が、清川村道の駅での小休止で、多くの人が豆腐をさげできて、「ここは最高においしいのよ」と車内で笑い声、私は買いそびれたので次回は是非賞味しようと思いましたが。

三重町、野津経由10号線無事帰り着きました。和気あいあい楽しい研修旅行でした。小野幹事さんを初め皆様ご苦労様でした。

### 三 国 峠

佩楯山は西南七キほどの尾根続き、元山部・片内の両集落を経て、三国峠(標高六六四、三トの)の国道三二六号線に出る。山頂は近い。

この三国峠は中世以来の官道で、豊後・日向を結ぶ交通路、近世の初頭臼杵・竹田・佐伯の三藩の領域がここに接していたのでこの峠名が起こり、明治十年(一八七七)西南の役にあたり、官・薩両軍がこの峠の争奪に、血戦を交した古戦場として有名である。(「本匠村史」)